

ダニ媒介感染症にご注意！



ダニが媒介する「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」が、八幡浜保健所管内でも報告されています。

<感染経路>

SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。

※マダニは主に森林や草地等の屋外に生息する大型のダニ（吸血前で3～4mm）です。食品や衣類など家庭内で生息するダニとは種類が異なります。

- ・どのくらいのマダニがSFTSウイルスを保有しているかは現在のところ不明です。

<主な症状>

潜伏期間はウイルスを保有するマダニに咬まれてから**6日～2週間**で、主な症状は、**発熱**と**消化器症状**（嘔吐，下痢，腹痛など）です。重症化し、死亡することもあります。

<予防のポイント>

マダニに咬まれないことが重要です。春から秋は特にマダニの活動が活発です。作業やレジャーなどで、草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る時は、次のことに注意してください。

- ◆肌を出来るだけ出さないよう、長袖，長ズボン，手袋，足を完全に覆う靴等を着用する。
- ◆肌が出る部分には，人用防虫スプレーを噴霧する。
- ◆付着したマダニを発見しやすい、明るい色の衣服を着用する。
- ◆地面に直接寝転んだり，腰を下ろしたりしないよう敷物を敷く。
- ◆家の外で服や体をはたき、マダニにかまれていないか確認する。すぐに入浴し体をよく洗って、新しい服に着替える。
- ◆吸血中のマダニを見つけた時は，つぶしたり無理に引き抜こうとせず、できるだけ病院で処理してもらう。

※ダニに咬まれることでかかる感染症には、他にも、日本紅斑熱やつつが虫病などがあります。

★野山などに出かけた後，発熱などの症状が出た場合は，速やかに医療機関を受診してください。

